

みんなの家 ななくさだより NO22

2009年 4月28日

700-0056 岡山市北区西崎本町1-7

TEL&FAX 086-253-8988



March

待ちわびた 便りが届く さくら咲く

花見の会



4月6日 みかど公園で花見の会を開きました。今年で3回目の花見はとてもよい天気恵まれ満開の花をめぐることができました。利用者さん18名、スタッフ9名の総勢27名の参加でした。場所のセッティングと送迎は男性スタッフ、お茶やおやつを用意と利用者さんの準備は女性スタッフが担当。お弁当はひまわりさんに「花見弁当」をお願いしました。みんなで食べるお弁当は満開の桜と青い空のスパイスが効いて格別に美味しく、おやつのアイスクリューまで残さずいただきました。唄を歌い、詩を詠み、皆で楽しんだひと時でした。

ここで事務長の詠んだ詩を一首

「幾年を 重ねかさねて笑顔咲く 桜の下のななくさの友」

スタッフから

近くの三門公園に花見に出かけました。天気は快晴で桜も満開。とても良い花見日和で、他に花見に来ている方も多数いて、春の訪れを皆待ちわびていたようでした。去年同じ場所で花見をしましたが、過ぎ去ったこの一年がとても長かったような、短かったような不思議な感覚を覚えました。新しい出会いや別れ、様々な変化がありました。そうした変化がこれからの一年を、より良いものにしてほしいと願わずにはいられません。舞い散る桜に「きれいだな～」と笑顔の利用者。そんな笑顔と桜に癒された春の一日でした。直幸



NさんとHさんの談話から

花見の席でNさんとHさんがしみじみと語りました。花見の会場となった「みかど公園」は、その昔「三門少年鑑別所」と言われた施設の跡地にできた公園なのです。30数年前、この鑑別所を建て替えるという話が持ち上がり、日ごろ反目しあう地域住民たちが結束して反対運動を起こしたのです。その中心にあったのがななくさ利用者のHさんであり、当時支援団体のNさんだったのです。「Hさん、もう40年近くなるなあ、東京の法務省まで行って役人を相手に交渉したなあ」ほんまじゃあ、よう覚えとる」とHさん。「どこかの放送局主催でやっつる旭川土手の桜よりみかど公園の桜のほうがなんぼもええ、値打ちがある」とNさんは言います。地域住民の暮らしにとっての安心と子どもやお年寄りが安全に楽しめる公園になったこと。樹木が大きく育ち花見の人々にぎわう様子が30数年前の思いや頑張りを実を結んだことをHさんとNさんはとても喜んでいました。私たちには、この様な歴史があったことを事実として伝える役割があるとあらためて思いました。昔々の同志が30数年前をしみじみと語り合い、現在の成果を喜び合う場面に立ち会うことができた貴重な時間でした。慎通

祝 合格!

09年1月末 ななくさの関係者3名が国家資格受験にトライしました。代表の中島氏が社会福祉士、スタッフ2名が介護福祉士を受験しました。どちらも同じ日に受験し、3月31日、同じ日の発表。3名とも見事合格! 懸けた思いの重さを知っています。頑張って勉強したことも知っています。一生懸命な思いは通じるのだと見せつけられたような気がします。3名の方の頑張りや敬意を表し、心からおめでとうを贈りたいと思います。本当におめでとうございます。事務長

訃報とどく 悲しみの別れ

4月初め、続けて悲しい知らせが届きました。5日、1年8か月前に入院されたHさん、7日、昨年入院されたHさん、お二人とも元利用者さんです。8日の朝には、服薬介助のため訪問したお宅で利用者のKさんをお風呂で発見、死亡を確認するという悲しい出来事がありました。短い間に3名の方が亡くなりました。介護の現場では避けて通れない事だとは言ってもやはりやりきれない気持ちになります。懸命に支援をしてもどうにも出来ないこと。無力さを感じ悲しみが深まります。

それでもその人たちを支えてきたことを自信に繋げ、悲しみは乗り越えて... ご冥福をお祈りします。職員一同

March